

障がい者の活動拠点と観光土産品作りの体験工房「風のたより」の整備で地域の交流と賑わいを創出

社会福祉法人フォーレスト八尾会

機関名	社会福祉法人フォーレスト八尾会		
所在地	富山県婦負郡八尾町黒田 5 3 - 3		
電話番号	0 7 6 - 4 5 4 - 2 1 1 7		
地域概要	(1)管内人口 22 千人	(2)管内商店街数	商店街
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 1 商店街	(2)会員数	58 商店
商店街の概要	(3)空店舗率 %	(4)大型店空き店舗数	
商店街の類型	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. <u>地域型商店街</u> 4. 近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成 15 年度 コミュニティ施設活用商店街活性化事業（複合施設）

- ・障がい者の活動拠点と観光客等の交流施設「工房風のたより」の整備、運営事業

総事業費

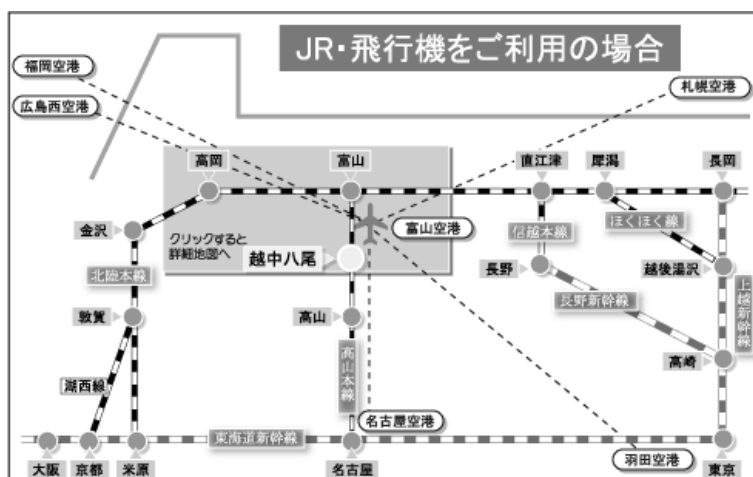
8,093 千円

【事業実施内容】

1. 背景

八尾町は、富山県の中央南部に位置し、総面積は 236.86 k m²（県構成比 5.6%）、南北に伸びた菱形をしている。人口は、昭和 25 年の 28,419 人をピークに減少を続け、昭和 50 年を境に横ばいとなり、平成 12 年の国勢調査では人口 22,322 人、世帯数 6,457 世帯となっている。

町の礎は古く飛鳥時代より築かれ、江戸時代初期より聞名寺を中心に門前町として発達するとともに越中と飛騨を結ぶ交通の要衝として、また藩政時代から地場産の蚕種や和紙の取引を中心に商人町として栄えてきた。町には、これらの地場産業や祭りを基盤とした「曳山まつり」「おわら風の盆」など、時代の栄華を



八尾町位置図（八尾町役場HPより）

伝える貴重な八尾文化が醸成されている。

特に中心市街地は、江戸時代に富山藩の御納所として栄え、「曳山まつり」、「おわら風の盆」等の文化、伝統を育み、各種機能が集積する地方都市の「顔」であった。しかし現在では、産業基盤の変化や経済活動の変遷、モータリゼーションの進展等を要因に住居・商業施設等の郊外の移転により空洞化が進み、商業者及び地域住民の生活の維持や文化の伝承等、生活環境は危機的状況にある。

このような「八尾町の顔」の衰退は、町全体の将来的な都市形成において支障をきたすものである。そのため、急峻な地形から広がらない中心市街地と、この地形的制約を補完する周辺地区とを複層的にとらえて良好な都市空間の整備を進めることにより、活力ある中心市街地の再生を行うことが緊急な課題となっている。

2. 事業内容

衰退が深刻化している商店街の活性化を図るため、商店街の真ん中にある空き店舗を活用し、障がい者の活動拠点や観光客が気軽に立ち寄れる交流拠点など、多目的に利用できる施設を設置した。



(1) 事業概要

- ①施設名称 コミュニティ施設
「工房風のたより」
- ②実施期間 平成16年3月21日～
- ③所在地 八尾町上新町2676番地
- ④規模 約80㎡

(2) 施設内容

観光客に向けた土産品工房、体験、情報発信のほか、来街者の休憩ややすらぎの場等、4つのコーナーを設置し、多目的な利用を可能とした。

①体験工房（軽茶教室）コーナー

地元の和紙やおわらをモチーフとした土産づくりの見学と、体験ができるコーナー。地元障がい者等の行き場（生き場）とともに活動を見学してもらう。また、八尾産特製桑茶を飲みながら、観光客等に土産品づくりを体験してもらう。



軽茶教室メニュー

項目	所要時間	体験料金
おわらはがき（1枚） 桑茶付き	15分	350円
紙風船（3枚） 桑茶付き	30分	500円
おわらマスコット 桑茶付き	30分	600円
おわらしおり 桑茶付き	30分	600円
おわら刺し子 桑茶付き	1時間	700円
おわら切り絵うちわ 桑茶付き	1時間	1,100円

②談話コーナー

地元の人が気軽に集まり、まちづくりについて話し合える空間とともに、高齢者や障がい者、観光客等が集い、交流できるコーナー。

③風のたよりコーナー

八尾を訪れた観光客等に、思い出や感動を「紙風船便り」に綴って送ってもらうコーナー。まちづくりにおいて、観光客の生の声を生かす。

<過去の八尾町に届いた紙風船>

- ・平成14年度風のたよりキャンペーン
1,011枚
- ・平成15年度風のたよりキャンペーンⅡ
728枚



④インフォメーションコーナー

町の情報発信拠点として、各関係団体のポスターやパンフレットの配置により、町、県等の情報を発信するコーナー。

主な発信情報

- ・八尾町役場農林課関係
- ・八尾町役場総務課関係
- ・越中八尾観光協会関係
- ・八尾町商工会関係
- ・元気に富山（富山県総合政策課）関係
- ・富山県観光連盟関係 等



(3) 主な活動内容

①オープニングイベント

- ・日時 平成16年3月21日
- ・内容 オープニングセレモニー（あいさつ、看板の除幕、のれん掛け）
ネコーズ・ライブコンサート

②土産品製作

「切り絵うちわ」、「紙風船」、「マスコット・しおり」、「おわら刺子」の4つの工房ごとに製作担当者を配置し、製作活動を自由に見学してもらった。

- ・期間 平成16年3月21日～3月31日
- ・工房見学者延べ人数 280人

【 効 果 】

1. 来街者の行動

当施設の整備により、上新町商店街の観光客、来訪客数の増加に貢献しているように

思われる。また、当施設がきっかけに“風の市”をはじめとするイベントにおいて、より一層力が入っているように思われる。福祉施設だけに、“やさしい”まちづくりに今後とも協力していきたい。

2. 商店街の認知度

マスコミ発表などにおいて、上新町にある“工房風のたより”と説明されるため、上新町という商店街名を広く伝えていると思っている。

まず、町内外の人どこにあるのかを認知してもらうことが何よりも大切で、そのことが次なる“にぎわい創出”につながると思っている。

3. 近隣個店への影響

現在、桑の葉粉を使ったまちづくり事業を展開しており、近隣の和菓子店がこの事業に取り組み、新たな商品化を進めている。今後も、新たなにぎわいの創出を福祉施設として仕掛けるべく事業を投げかけていきたい。

【課題・反省点】

1. 事業の合意形成

まちづくりや商店街と福祉施設との結びつきが、今ひとつ商店主や商工会等において理解が浸透されず、まだまだ温度差があるように思われる。福祉は、介護や老人のお世話といったことではなく、究極の目的であり、その目的は“まちづくり”であるということ伝えていきたいと思っている。

2. 人的体制

障がい者の方の働く場としての機能をもっている工房であることから、大量に観光客等が訪れた場合、スピーディーに対応できない部分がある。そのため、マンパワーの体制をいち早く整えたいと考えている。ボランティアの方との連携等、福祉施設だからこそ胸を張ってできる人的資源の整備に、早急に取り組みたいと考えている。

3. 事業費の確保

補助金は、商品の仕入資金等活用できない経費があることから、補助金が終了する3年目以降の戦略を立てようにもなかなか思うように予算を立てられない面がある。いち早く独り立ちするためにも、今のうちから事業費を確保していきたい。

【事業の実施ポイント】

なにをするのか、なにをしたいのか。その未来予想図をしっかりと立て、3年計画によるにぎわい創出づくりをプロデュースする意気込みを常に高く持ち続けることが何よりも大切である。

“福祉”“環境”がキーワードとなっている現在、この2つをどう組み合わせるかが、にぎわい創出のカギのように思われる。さらに、もう一つ加えるならば、“健康”でしょうか。

【関連URL】

社会福祉法人 フォーレスト八尾会 <http://www.cty8.com/forest/>